

農業技術センター普及指導部作物関係情報 (その4)

タイトル：水稲の生育状況（7月25日現在）について

発信日：平成23年 7月27日

内容

- ・気温は6月5半旬以降、平年より高めで、日照は平年並～多く推移した。7月5半旬に平年より低くなったが、水稲の生育は、日射量が十分確保されているため、平年並～2日程度早く推移している。
- ・「キヌヒカリ」は、草丈は平年並み、茎数は平年並～やや少ない、葉色は平年よりやや薄い傾向である。「さとじまん」は、草丈は平年並～やや低く、茎数は平年並～やや多い、葉色は平年並みの傾向である。
- ・幼穂形成始期（幼穂長1㍓の頃）は平年に比較して、早生品種「キヌヒカリ」で平年並～2日程度早く、中生品種「さとじまん」はほぼ平年並みの傾向になっている。
- ・7月25日発表の3ヶ月予報では、気温は平年並みかやや高く、降水量は平年並～やや多い予測となっているため、生育は今後、平年並み～やや早く推移すると予測される。

今後の作業

今後の水稲の技術指導において、次の点に留意する。

①出穂期については、平年並み～2日程度早くなると予測される。

②穂肥（追肥）は、高温障害回避と整粒歩合向上を目的に、施用時期をやや遅くし、施肥量は平年並み～やや多く、窒素成分で2～3kg施用する。残暑が厳しいと予想されるので、登熟が抑制されないよう追肥は必ず行う。

◆「キヌヒカリ」は、出穂期の20～15日前、窒素成分2kg程度を施用する。

◆「さとじまん」は、出穂期の15～10日前、窒素成分2～3kgを施用する。

*農業技術センター（平塚市）での概ねの目安

作期	品種名	出穂期	穂肥時期	湛水状態期間（水を切ってはいけない期間）
5月下旬植	キヌヒカリ	8月 6日頃	7月17日頃	7月22日～8月16日
	さとじまん	8月15日頃	7月31日頃	7月31日～8月25日
6月上旬植	キヌヒカリ	8月13日頃	7月23日頃	7月29日～8月23日
	さとじまん	8月18日頃	8月 3日頃	8月 3日～8月28日
6月中旬植	キヌヒカリ	8月18日頃	7月29日頃	8月 3日～8月28日
	さとじまん	8月24日頃	8月 9日頃	8月 8日～9月 3日

(注) 追肥により葉色が濃くなり、イネツトムシの発生時期と重なると被害が増幅されるため、常発地域は防除を行う。

- ③最も水管理が大切な時期です。
穂ばらみ期～出穂期～乳熟期（出穂の約15日前～出穂後10日頃まで）は、最も水を必要とする時期ですので、水を切らさないよう注意する。
- ④害虫の発生は平年並みの傾向にあるが、害虫の発生情報には十分注意する。病虫害防除部のテレホンサービス（0463－58－6612）やホームページを活用する。
- ⑤イネツトムシの発生に注意する。
イネツトムシの孵化最盛期予測が7月23日のため、散布してから効果が現れるまで5～7日かかる粒剤は中干し後早急に防除を行ってください。例年、イネツトムシの発生が見られる水田は必ず防除する。
- ⑥紋枯病の発生に注意する。
発生は平年並みと予想されるが、梅雨明け後、高温傾向が続く場合、紋枯病が発生しやすくなる。「キヌヒカリ」は紋枯病に弱く、多発すると倒伏し易くなるので、必要に応じて薬剤により防除する。薬剤防除する場合は、穂ばらみ期（出穂の10日前頃）が効果的です。
- ⑦斑点米カメムシの発生に注意する。
斑点米の被害が出やすい条件は、夏期の気温が高いとき、周辺に牧草地や雑草地などの繁殖源があるとき、イネの出穂期や登熟が遅延したときなどです。薬剤防除する場合は、出穂期前後に行うと効果的です。

※薬剤の使用に際しては、ラベルの表示を確認してください。

参考情報・文献
平成23年気象庁横浜气象台気象表並びに野菜作物研究部・現地
水稻生育診断調査結果

連絡先
農業技術センター普及指導部 作物加工課
平塚市上吉沢1617
電話番号：0463－58－0333（内）381～384
FAX番号：0463－58－4254
Eメール：noken.fukyu@pref.kanagawa.jp